中部大学通信
ウプト
wpwt

ウプトとは、古代エジプトのヒエログリフ（象形文字の一種）で、「伝達する人」の意味。エジプト古王国の碑文などに見られ、19世紀初めにフランスのシャンポリオンが解読している。

［トピック］
IDCロボットコンテスト本学での開催決まる
世界7大学、1選抜が混成チームで競い合う
期間は8月1日～13日

［ウプト学生編集委員の企画・取材ページ］
中部大学キャンパスを探検してみま専科
学内11カ所の施設をご紹介！皆さんも足を運んでみて

［桃園四季］
The main dangers in this life are the people who want to change everything—or nothing.
経営学科　講師　寺澤　朝子

ようこそわが研究室へ
映像メディアを通してコミュニケーションを考える
コミュニケーション学科　教授　内藤　誠

［顔］
懸賞論文で「国際テロリズムへの提言」を執筆し、最優秀論文賞に輝く
大学院国際関係学研究科　博士後期課程3年
福田　州平さん

Diary in Leeds
イギリス／リーズ通信　Leeds大学滞在日記①
土木工学科　講師　小林　孝一

［特集］平成14年度就職総括
すべての学生が、より良い進路選択をするために
キャリアセンター課長　市原　幸造

May 2003
No.146

初夏の名物行事「ナイトウォーク」が5月24日夜から25日朝にかけて行われた。（写真は、野外ステージでの出発式の模様）

中部大学物語
あのとき中部大学は⑦

1976 恵那オリの舞台で28年。

スパニッシュ風なデザインが目を引く恵那研修センター

本学の恒例行事「新入生オリエンテーション」は、学生たちの間では「恵那オリ」と呼ばれ、恵那研修センターで1泊2日の日程で行われています。学科の先生や上級生のアシスタントが同行し、学科の特色や大学生活のアドバイスを通して参加者全員が親睦を深めています。恵那研修センターは、各種ゼミナール、クラブ合宿など年間を通じて利用されています。センターの完成は1976年（昭和51年）3月。設計や施工の優秀性が認められ、1976年度の第8回中部建築賞を受賞しました。

研修棟や宿泊棟、体育館、グラウンドを擁した広大な恵那キャンパスは、土木工学科の先輩たちの測量図をもとに造られています。時をさかのぼること35年、杉野進助教授（現名誉教授）の指導で山を切り拓き、道をつくり、暑さや蜂と闘いながら行われた測量実習。土木工学科生有志の汗の結晶が恵那キャンパス建設への大きな力となりました。

［編集後記］
新年度が始まって2カ月が過ぎました。今回、学生編集委員の企画ページでは、新入生の皆さんにより良い大学生活を送っていただこうと中部大学の施設を紹介。どんどん活用して自分を磨いてみてはいかが。特集では平成14年度就職総括を掲載しました。就職活動は、自分を見直す良い機会です。
本誌4ページの［就職活動6つのプロセス］を参考に、希望の職種を勝ち取りましょう。

中部大学通信　ウプト　No.146
発行日／2003年5月31日　発行／ウプト編集委員会　広報出版室
〒487-8501春日井市松本町1200　Tel〈0568〉51-1111（代表）　http://www.chubu.ac.jp/
お問い合わせ先
●大学生活全般／学生部（内線2171）　●就職関連／キャリアセンター（内線2221）
●入試関連／広報部（内線2131）
●『ウプト』に関するお問い合わせ　広報出版室（内線2210）　E-mail:shuppan@chubu.ac.jp

CONTENTS

WPWT No.146

[桃園四季] 1
The main dangers in this life are the people who want to change everything – or nothing.
経営学科 講師 寺澤 朝子

[特集] 平成14年度就職総括 3
すべての学生が、より良い進路選択をするために
キャリアセンター課長 市原 幸造

平成15年度入試報告 5

[新任教員] 誌面から自己紹介 5

[トピック] 7
IDCロボットコンテスト本学での開催決まる

[学生編集委員の企画・取材ページ] 9
中部大学キャンパスを探検してみま専科

ようこそわが研究室へ 11
コミュニケーション学科 教授 内藤 誠

「顔」 12
大学院国際関係学研究科 博士後期課程3年
福田 州平さん

A Friend from Abroad 13
建築学科4年
カジ ファイサル ザマン君

わがクラブ 14
建築研究会 谷尻 かおり

Diary in Leeds 15
イギリス／リーズ通信
【Leeds大学滞在日記①】
土木工学科 講師 小林 孝一

私のいちおし 17
国際関係学科 教授 峯 陽一

活躍するOB 18
昭和48年度 工業物理学科卒業
NTT西日本 中嶋 和雅さん

CAMPUS NEWS 19

ランダムショット 22
中部大学非常勤講師 名鶴ひとみさん

キャンパス再発見 22
中部建築賞受賞歴（前編）

中部大学物語 23

The main dangers in this life are the people who want to change everything—or nothing.

経営学科 講師 寺澤 朝子

中小企業のオヤジさん（社長さん）に、「経営で一番難しいことは何ですか」と尋ねると、まず間違いなく「人を動かすこと、やる気にさせることだね」という答えが返ってくる。

私が勉強してきた動機づけ理論は、まさに社員のモチベーションを上げる、すなわちやる気にさせるための研究である。社員の欲求（望むこと）を把握した上で、最適な目標を与え、目標達成までの管理、監督を行う。右肩上がりの成長が続いた時代は、上司の指示に従い、まじめに努力した社員はそれなりの報酬をもらうことで会社は成り立ってきた。

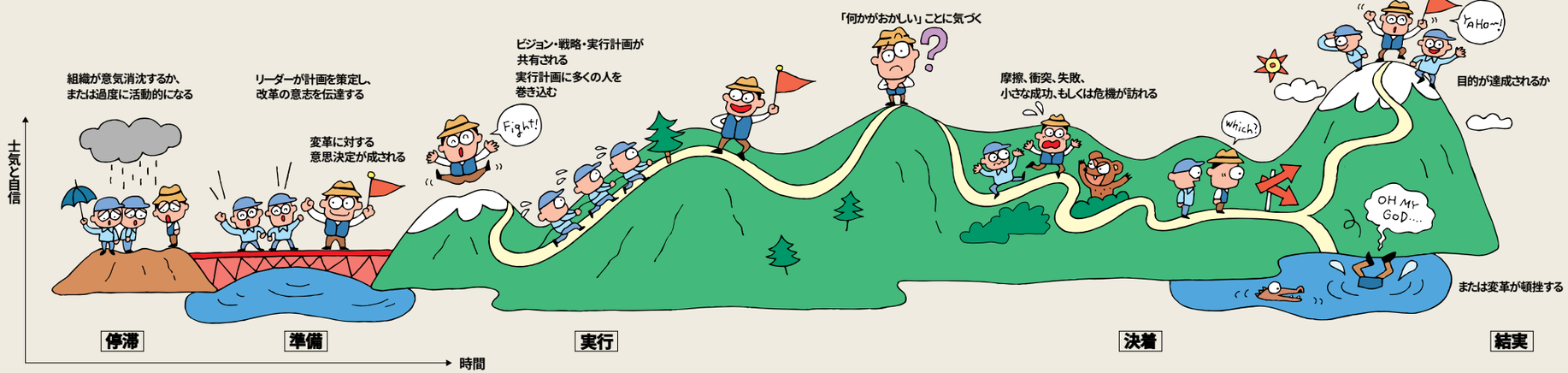
ところが、右肩上がりの成長が止まってしまった現在、会社員は変革の一端を担うことを要求されている。組織変革とは、既存のやり方を壊すことであり、一人ひとりの社員には、その意識の改革と行動の変化が求められる。

「考え方を変えろ」「これまでのやり方を変えろ」と言われてもそう簡単には変えられない。社員を変革へ動機づけるには、これまでとは異なった動機づけ手法が求められる。

変革への動機づけに、魅力的な報酬は必要ない。社員の不安や恐れをできるだけ取り除くことが何より重要である。「リストラされてしまうのではないか」「自分が蓄積してきた技術や知識は用無しにならないか」「苦労してつくり上げてきた人間関係が崩れやしないか」こうした変革に伴う不安は即変革を失敗させる原因となる。社員の存在意義を否定することなく、変えなくてもいいところと変えなければならないところをきちんと明示してやることが、社員に安心感を与え、一歩踏み出す勇気を持たせるのである。

もうひとつ重要なことが、「変革後の会社の姿」すなわち「将来のビジョン」の提示である。不安や恐れを乗り越えて頑張れば、必ず良い結果が出ることをトップをはじめとする経営陣が熱意をもって説得し、うまく周りの人間を巻き込む必要がある。

社員の不安や恐れを取り除き、将来のビジョンを明確に伝える。これらが変革への動機づけに不可欠であることは、会社だけでなく、あらゆるタイプの組織に共通して言えることは間違いない。



すべての学生が、より良い進路選択をするために

キャリアセンター課長　市原　幸造

心得①　些細なことでも学科の先生やキャリアセンターに支援を求める
心得②　自分を活かせる仕事や職場を見つけるための選択肢を広げる
心得③　自分を知り、仕事を知ることから最適な道が開ける

全国平均を上回る本学の就職率しかし…

厳選採用が定着した平成14年度の就職戦線で、中部大学生の就職状況は就職希望者に対する「内定率」が90・9％（3月末）、卒業生に占める就職者の割合を示す「就職率」が72・0％（全国平均56・9％、文部科学省2002年学校基本調査より）でした。

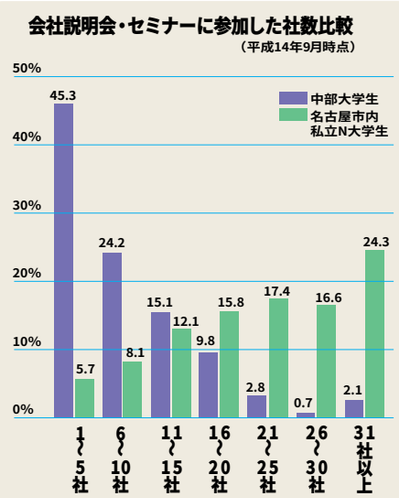
これらの数字はいずれも全国平均を上回っており、「就職も教育の一環」というスローガンを掲げた各学科の教員による熱心な指導の下で学生が懸命に就職活動を行った結果と言えるでしょう。

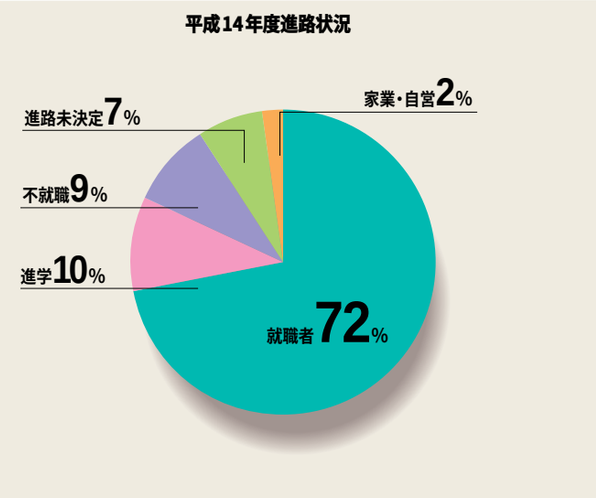
特に、就職も進学もしないで卒業していく学生（不就職者）の割合が全国平均では21・7％（文部科学省2002年学校基本調査）にもなっている中、本学では全体で8・8％と低く抑えられています。このことは東海地区に比較的堅調な企業が多いという恵まれた地域性もさることながら、学生たちが大学生活を通じて本学の建学の精神「不言実行―あてになる人間の育成」の下で自己を成長させ社会からのニーズに応えているからと言えるでしょう。

しかし一方では、100人を超える学生が進路未決定のまま卒業しています。今後も続く厳選採用時代においてすべての学生がより良い進路選択をするためには、些細なことでも構わないので学科の先生やキャリアセンターに支援を求めることが学生の皆さんにとって大切です。

キーワードは「積極性」

下のグラフは昨年9月に実施した、県内の大学4年生を対象に行ったアンケート調査の結果です。9月の時点で「会社説明会・セミナーに参加した社数は?」という質問に対する回答について、本学と名古屋市内の私立N大学の結果を比較してみるとその活動状況に大きな差が見られます。中部大生は、1～5社という割合が最も多く、N大学とは全く逆の結果となっています。これでは本当に皆さんが満足できる就職先を見つけることは難しいと思います。ただ単に「内定」をもらうためだけではなく、自分を活かせる仕事、職場と出会うためにもできるだけ多くの会社説明会に積極的に参加して選択肢を広げることが重要です。





あなたのキャリアプランニングは「自分を知り、仕事を知ること」から始めよう

6つのステップを学科の先生方やキャリアセンターのスタッフからの支援を受けながら一つずつクリアしていき、そしてこの各ステップを行ったり来たりすることで、あなたのキャリアプランは整理され、あなたの求めるものが少しずつ明確になっていきます。

1年生や2年生でも自分のキャリアプランに興味がある人は、キャリアセンターを訪ねてみてください。

DEBUT! ①出身地 ②最終学歴・学位 ③専門 ④最終前歴 ⑤主な著書または論文 ⑥趣味

[新任教員]誌面から自己紹介

皆さんとの交流を楽しみにしています 学問について、進路について語り合いましょう

今春、新たに17人の先生方をお迎えしました。研究テーマや論文などを参考に、興味のある先生の講義を受講してみるのもいいですね。

趙（ちょう） 偉（い）講師
（経営学科）

①中国天津市
②名古屋大学大学院
経済学研究科博士後期課程満期退学
博士（経営学）
③経営組織論
④名古屋大学講師
⑤「作業組織の再編成」
⑥テニス

佐藤（さとう） 文香（ふみか）講師
（コミュニケーション学科）

①東京都
②慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科博士後期課程
満期退学
博士（学術）
③ジェンダー研究
④成蹊大学・武蔵大学非常勤講師
⑤「日米の女性兵士をめぐるジェンダー・イデオロギーの変遷」
⑥音楽鑑賞、水泳、買物

BRIAN J.WISTNER（ブライアン ウィスナー）講師
（語学センター）

①アメリカ合衆国
②オハイオ大学大学院
応用言語学修士課程修了
M.A.
④昭和音楽大学非常勤講師
⑥コンピュータ、スポーツ、音楽

SUSAN H.GOULD（スーザン グールド）講師
（語学センター）

①アメリカ合衆国
②オハイオ大学大学院
応用言語学修士課程修了
M.A.
④オハイオ大学講師
⑤「Comparing Handwritten and Word-Processed Essay Scores」
⑥ジャズピアノ演奏、旅行、トランプ

鈴木（すずき） 肇（はじめ）助教授
（情報教室）

①神奈川県
②東北大学大学院
理学研究科博士後期課程満期退学
博士（理学）
③素粒子物理・プラズマ物理・原子核関連実験及びデータ収集システム設計
④核融合科学研究所助手
⑤「ホログラフィ泡箱によるタウ・ニュートリノ振動の研究」
⑥おりがみ、絵画鑑賞、コンピュータグラフィックス

野田（のだ） 真里（まさと）助教授
（国際関係学科）

①三重県
②名古屋大学大学院
国際開発研究科博士後期課程満期退学
③社会開発政策・経済発展論・NGO／NPOマネジメント
④名古屋大学助手
⑤『仏教・開発・NGO』（共編著）
⑥テニス、ボランティア活動、途上国を歩く

柳谷（やなぎや） 啓子（けいこ）助教授
（コミュニケーション学科）

①東京都
②慶應義塾大学大学院
文学研究科博士後期課程満期退学
③社会言語学・談話分析・英語学
④帝京大学助教授
⑤「The Relation of the Notion of Face and Linguistic Politeness」
⑥猫の飼育、乗馬、登山

内田（うちだ） 秀雄（ひでお）講師
（電子工学科）

①愛知県
②名古屋工業大学大学院
工学研究科博士後期課程修了
博士（工学）
③半導体集積回路工学
④名古屋工業大学助手
⑤「Boron Diffusion Profiles in Ultrathin Silicon-on-Insulator Structures and Their Relation to Crystalline Quality」
⑥旅行、日曜大工、工作

井上（いのうえ） 輝夫（てるお）教授
（コミュニケーション学科）

①兵庫県
②慶應義塾大学大学院
文学研究科博士後期課程満期退学
文学博士
③フランス近・現代文学／日本近・現代詩
④慶應義塾大学教授
⑤「Une Poétique de l'ivresse chez Charles Baudelaire」
⑥スポーツ、大工仕事

小久保（こくぼ） 正（ただし）教授
（総合工学研究所）

①東京都
②大阪市立大学
理学部地学科卒業
工学博士
③無機材料化学
④京都大学教授
⑤「"Ceramics for Biomedical Applications" in Handbook of Advanced Ceramic Science Materials Applications and Processing」
⑥読書、音楽鑑賞、散策

青島（あおしま） 淳（あつし）教授
（応用化学科）

①神奈川県
②慶應義塾大学
工学部応用化学科卒業
工学博士
③触媒の化学と工学
④旭化成エポキシ（株）社長
⑤「ヘテロポリ酸の反応性と触媒機能」（日本化学会誌）
⑥ゴルフ、バードウォッチング、野球

髙丸（たかまる） 尚教（ひさのり）助教授
（情報工学科）

①広島県
②広島大学大学院
理学研究科博士前期課程修了
博士（理学）
③シミュレーション科学
④核融合科学研究所助手
⑤「Kinetic Self-Organization : Creation of Super Ion-Acoustic Double Hayer」（共著）
⑥読書、ドライブ

早原（はやはら） 悦朗（えつろう）教授
（情報工学科）

①兵庫県
②東京工業大学大学院
理工学研究科博士後期課程修了
工学博士
③信号処理
④名古屋工業大学教授
⑤『電気電子回路1・2』（単著）
⑥囲碁、ハイキング

堀川（ほりかわ） 直顕（なおあき）教授
（理学教室）

①岐阜県
②名古屋大学大学院
理学研究科博士後期課程満期退学
理学博士
③高エネルギー素粒子・原子核物理学
④名古屋大学教授
⑥卓球、釣り、音楽鑑賞

尾崎（おざき） 正弘（まさひろ）教授
（経営情報学科）

①愛知県
②慶應義塾大学
文学部哲学科卒業
博士（工学）
③情報科学・情報教育
④名古屋女子大学短期大学教授
⑤「筆者識別および書字学習に関する研究」
⑥散策、料理、自然観賞

大津（おおつ） 誠（まこと）教授
（経営学科）

①東京都
②イリノイ大学大学院
産業労使関係研究所博士後期課程修了
Ph. D.
③比較経営論
④南山大学教授
⑤「Inside Japanese Business : A Narrative Histroy,1960-2000」
⑥合気道（6段）

阪上（さかがみ） 孝（たかし）教授
（中部高等学術研究所）

①兵庫県
②京都大学大学院
経済学研究科修士課程修了
博士（経済学）
③社会思想史
④京都大学教授
⑤『近代的統治の誕生』
⑥囲碁、水泳、雑談

平成15年度入試報告

志願者数は135528人

平成15年度入試は7月のAO入試でスタート、今年3月の後期試験ですべてを終了した。

17学科のうち、開設2年目の経営学科、心理学科を含めて10学科で志願者数が伸びたものの、全体では前年度比288人減の135528人だった。

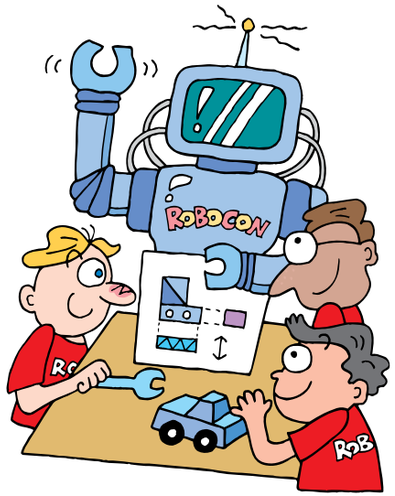
同様に学部別では、工学部99・1%、経営情報学部95・6%、国際関係学部113・3%、人文学部106・0%、応用生物学部90・6%だった。

中部大学 平成15年度志願者数

学部	学科	平成15年度	平成14年度
工	機械工学科	1,591	1,471
	電気工学科	525	588
	電子工学科	649	688
	土木工学科	421	466
	建築学科	950	929
	応用化学科	777	729
	情報工学科	1,205	1,304
	計	6,118	6,175
経営情報	経営情報学科	1,206	1,441
	経営学科	505	348
	計	1,711	1,789
国際関係	国際関係学科	423	412
	国際文化学科	317	241
	計	740	653
人文	日本語日本文化学科	442	364
	英語英米文化学科	323	316
	コミュニケーション学科	312	367
	心理学科	627	560
	計	1,704	1,607
応用生物	応用生物化学科	1,677	2,049
	環境生物科学科	1,578	1,543
	計	3,255	3,592
	合計	13,528	13,816

TOPICS

IDCロボットコンテスト 本学での開催決まる



International Design Contest 2003

IDCロボットコンテスト国際交流大会2003（International Design Contest 2003）が本学で今年8月1日から13日にかけて開催されることが決まった。

IDCロボコンは、学生たちの独創力と技術力の養成、さらに国際交流の体験を目的に1990年から毎年開催されている歴史と伝統を誇る大会である。もともとはアメリカのマサチューセッツ工科大学と東京工業大学の共催の形を取りながら開催されてきた。

14回目となる今年は、初の試みとして本学を東京工業大学の共同ホスト校とし、ワークショップとコンテストを中部大学で開催することが決まった。

中部地区は産学ともにロボット産業の中心的な地位を目指しており、2005年の愛知万博に向けても、本学をはじめとする研究機関でのロボットの研究や開発が盛んである。ロボットコンテストへの関心も高くIDCロボコンのような国際規模の大会が本学で開催されることはさまざまなメディアからも注目されるところとなっている。

世界中から7大学と1選抜チームが本学に集まる

IDCロボコンに参加するのは、世界7大学、1選抜チームである。競技方法は各大学の代表6人とフランス選抜の4人が、各国混成で5～6人のチームを作り、与えられたキットを使って独自開発のロボットを製作し、ルールに従って競技を行い優劣を決めるというものである。

現在決まっているスケジュールでは8月1日がオリエンテーションと歓迎パーティー、2日から12日がロボット製作、この間に休みが1日入り、見学会などが行われる。13日が待望のコンテスト。この後さよならパーティーが行われ学生たちは帰国の途に着く。

NHKが全面取材

協賛は三菱電機

IDCロボコンはNHKの後援、三菱電機の協賛で開かれる。

この模様はNHK名古屋放送局が取材制作し、後日放送される。当然、NHKや民放各局をはじめマスコミ各社の取材が多く入り、ロボットの製作現場、ワークショップなどが紹介されることになっている。

ロボコンに使われる会場はロボット製作関係が7号館1階の機械工作実習室と機械工学実習室、ワークショップが同3階のファカルティルーム、最終日のコンテストは三浦幸平メモリアルホールで行われる。

なお、期間はまだ決まっていないがIDC応援サイト http://www.idc-robocon.com/ もやがてオープンし、ロボットコンテストの準備状況や競技の模様を写真とリポートで掲載することになっている。

IDCロボットコンテストの詳細はこれだ!

日時――2003年8月1日(金)～13日(水)

会場――中部大学（愛知県春日井市松本町1200）
- ●ロボット製作関係：機械工作実習室、機械工学実習室（7号館1階）
- ●ワークショップ：ファカルティルーム（7号館3階）
- ●コンテスト：三浦幸平メモリアルホール

参加大学――マサチューセッツ工科大学（アメリカ）
ケンブリッジ大学（イギリス）
ダルムシュタット工科大学（ドイツ）
ソウル大学（韓国）
サンパウロ大学（ブラジル）
フランス大学選抜チーム
東京工業大学
中部大学

主な予定――8月1日――オリエンテーション、歓迎パーティー
8月2～12日――ロボット製作
8月13日――コンテスト、さよならパーティー

主催――IDCロボットコンテスト実行委員会
＊NHKエンタープライズ21と参加大学による委員会

後援――NHK

協賛――三菱電機（株）

写真提供:NHKエンタープライズ21

TOPICS

2003年度 日本建築学会大会（東海）を本学で開催 9月5～7日

「持続と循環：地球、地域、建築そして生命」と題して「2003年度日本建築学会大会（東海）」が、来る9月5～7日の3日間、本学を主会場に開催されることになった。

（社）日本建築学会は、会員数36000人、建築に関する学術・技術・芸術の進歩、発達をはかることを目的とした団体で、それぞれの地域に密着した活動を展開している。

今大会では、学術講演会、専門分野ごとの研究協議会、パネルディスカッション、日本建築学会主催の各種表彰式、建築作品展などが行われる。記念行事では「住みたいまち、住みやすいまち」と題した記念講演会・シンポジウムの他に、地震をテーマに子どもたちがペットボトルと割り箸で耐震模型を製作し、水でいっぱいにしたペットボトルを振動台の上でゆすってどちらか一方が壊れるまで競い合う市民参加型の「ぐらぐらコンテスト2003」などが開催される予定である。

本学独自の催しでは、利休の茶室を復元した工法庵や大学が取り組む耐震対策の見学会、「大学キャンパスの設計」と題した講演会などが行われる。

詳細は、2003年度日本建築学会大会（東海）のホームページで紹介されている。
http://www.a.chubu.ac.jp/aij/

学生編集委員の企画・取材ページ

中部大学キャンパスを探検してみま専科

みんな知っているようで、案外知らなかったりして。だから私たちウプト学生編集委員が企画しました。

学生の皆さん、こんにちは。新入生の皆さんも大学生活に慣れた頃だと思います。でも中部大学自慢の広大なキャンパスについては、まだまだ未知数なのでは？　そこで私たちが取材した数々の施設をご紹介。実際に足を運んでみてくださいね。レッツ・ゴー！

1 キャリアセンター

就職活動の支援をする場所であると共に、一方で将来、社会で働くという視点から大学生活の過ごし方を支援する場所でもあります。自分に何が向いているのか、どんな勉強をしておくべきか、少しでも不安を感じた時には気軽に相談に行ってみましょう。

2 SI（Self-Instruction）ルーム

2002年度には延べ6,000人が利用した語学学習のための自習室です。コンピュータを利用した学習のほか各種教材が豊富に用意され、学習方法についてのカウンセリングも実施しています。毎週水曜日は英語音声・字幕の映画鑑賞会を開催。

3 第2学生ホール（食堂）

隠れた名店、通称「ニショク」。その理由は、手作りのカツや麺類の人気を知れば納得でしょう。日替りメニューの中では、四川風からあげや梅じそチキンが人気です。ぜひお試しください。

4 キャンパスプラザ

掲示板、マクドナルドやスガキヤ、丸善、ヒルズマート、JTB、郵便局があり、全ての学生が使用する場所です。マックに並ぶ行列は、キャンプラの昼の顔。1年生も、日に1度はここに来ているはず。多くの人が使う場所だからこそ、一人ひとりのモラルが大事。心地よい大学生活を送れるように心しよう！

5 国際交流センター

留学する学生の送り出しや受け入れなど提携校との交換留学の事務手続きを行っています。留学相談コーナーでは、提携校の案内や留学プログラムを紹介し、資料が豊富に取り揃えてあります。海外研修を目指す人は、1年生のうちから準備をしましょう。

6 第3学生ホール（食堂）

人文学部25号館に隣接する第3食堂。丼物の種類は学生食堂の中で一番!! 定番の親子丼からエビフライ丼・鳥おろし丼などもあります。人気メニューは丼物と麺類。天気の良い日はすぐ外にある噴水前で食べることもできます。

7 エクステンションセンター

資格取得対策講座の開講と申し込みの受け付け、公開講座、オープンカレッジ、アカデミックレクチャー（講師派遣）など行っているところです。公開講座は無料なので、開催地域の近くに住んでいるならぜひ参加してください。資格は自分の目標にあったものを早めに取得すると役に立ちますよ。

8 第1学生ホール（食堂）

座席数は730席で昼食時にはいつも満席。唐揚げが人気ですが、今年のオススメはカレー。有名メーカーと協力して作り上げた努力の結晶で、春からルーがパワーアップしました。棚に並べられているメニューの中で定食と鉄板料理は本物。料理人の気合いが感じられます。

9 体育・文化センター

今春、完成した全天候型のグラウンドを始めとして、学内の運動施設は全て使用可能。ただし、講義→部活→個人と優先順位があります。使用の際は、正しい使い方、マナーを守ることが重要です。6月18日には、新しい人工芝のグラウンドで全学スポーツ大会が開催されます。友だちを誘って参加しよう。

10 附属三浦記念図書館

図書館といえば、本を借りるだけの所って思ってない？もちろん蔵書数47万冊も自慢だけど、“図書館は情報の発信基地”。ネットで他大学や海外の論文へもアクセス可能！しかも無料!!これは使わなきゃソンだよね。利用方法など詳しくは図書館へGO！

11 学術情報センター

ツタのからまる24号館と22号館にある実習室・自習室の総称です。22号館の自習室は8時～21時まで開放されています。また24号館も講義がないときは自習可能。メールアドレスの発行やダイヤルアップ接続サービスなども行っています。詳しくは24号館窓口までお問い合わせください。

ようこそわが研究室へ ㉓

映像メディアを通してコミュニケーションを考える

コミュニケーション学科 教授 内藤 誠

Welcome to My Room!

コミュニケーション学科

4年生ゼミ

わが研究室には映像に関する研究論文を書きたいと考える学生と映像作品を実際に制作したいと希望する学生が混在しています。それに大学院生や、他学部からも映画論で卒業論文を仕上げようとする学生がやってきますから、不精者の私も研究室をなるべく整理するように努め、資料がすぐ取り出せるようにしています。

映画が誕生してから100年以上になりますと、その前史の研究も含め著作物も多面にわたり、とりわけビデオ・DVDの資料となると、取捨選択をしながら整理しなければなりません。学生の作品まで含め、その資料の多様さだけはわが研究室の誇れるところでしょう。

ゼミ生は、企画書と脚本を付した映像作品を制作して論文に代えることもできますが、これはかなりきつい作業でもありますから、ゼミに入る前の面接で、そのことは確認しています。世間には「映像で考える」などと言って、やたらとカメラを振り回そうとする人がいますが、わがゼミでは許されません。人間は「ことば」でものを考える動物だからです。今年は一段と個人のもつテーマ、すなわち世界観や人間観を検証し、まずきちんとした企画・構成台本を仕上げてから、撮影に入るよう徹底したいと思います。ドキュメンタリーであれ、ドラマであれ、「建築への意志」をもって、「ことば」で考え、設計図を充実したものにしたいのです。

初めてゼミ生をもったときは、作品を現実に完成してくれるだろうかと、いささか心配でしたが、いまはもう、ひたすら作品の質の向上と、コミュニケーション学科らしいプレゼンテーションの技術が課題となってきました。昨年度の上映発表会には卒業生も来てくれて、いい作品ができるようになったと言ってくれました。指導にあたる者としては嬉しい限りです。新年度も一同、やる気十分なので、皆さん揃って発表会に来てくださるようお待ちしています。

3年生ゼミ

CloseUp 顔

懸賞論文で「国際テロリズムへの提言」を執筆し、最優秀論文賞に輝く

大学院国際関係学研究科
博士後期課程 3年
福田 州平さん

研究テーマを決定づけたあの事件

ハイジャックされた2機の飛行機がニューヨークの世界貿易センタービルに激突し、多数の死者、行方不明者を出した2001年9月11日。大学院国際関係学研究科博士後期課程に在籍する福田州平さんにとっても、この日は忘れられない。世界が注目した大惨事が起こるその朝、福田さんは「グローバル化時代の国際テロリズムへの提言」という論題で、6月に読売新聞で知った懸賞論文「国際化の進展と社会の安全を考える」（財）公共政策調査会、警察大学校警察政策研究センター主催、警察庁、読売新聞社後援）の執筆を終えたばかりだったという。

この論文の中で福田さんは、テロリズムは人類共通の敵とし、過去に起きた地下鉄サリン事件、在ペルー日本大使公邸占拠事件などを例に挙げながら、テロ行為そのものは、少人数でも大量殺戮が可能だと言及。国際テロ組織に関する情報収集の必要性、資金根絶、テロに関する教育の必要性や被害者のアフターケアの重要性を訴え、12000字余りにまとめた。「論文執筆中はあんな事件が起こることは思わなかった」という本人の心とは裏腹に、まるで未来を予見していたかのような内容が、審査委員から高い評価を得られ、見事、最優秀論文賞に輝いた。

一本の論文から広がる夢

「懸賞論文に応募してみようと軽い気持ちで書き始めた論文が、その後の僕の研究テーマになるとは思いもしませんでした」と言うように、その後の福田さんの活躍には目を見張るものがある。

今年1月30日、名古屋キャンパスで行われた中部大学国際地域研究所（現・国際人間学研究所）、立命館大学国際地域研究所共同シンポジウム「アメリカの見られ方、感じられ方」では、院生ながら教員に交じって演題「テロリズムとアメリカ」を発表、同研究所が発行する『国際研究』第18号には、資料紹介で「アメリカ同時多発テロ事件についての覚書」が掲載されている。

「テロリズムは、文化、歴史、そしてテロ行為を行う人たちの心理など様々な要因が複雑に絡み合って生まれます。テロは表裏の関係で、敵からみれば『悪』とされる行為でも、他方から見れば『正義』。テロとは何かがわからなくなってしまいました」。研究を進めていくうちに、懸賞論文で「テロは倒せぼよい」と強気に主張していた福田さんの考え方にも変化が訪れたという。「テロと無関係にも関わらず、他人から『テロリスト』とレッテルを貼られることで、彼らが生きる正統性が剥ぎ取られてしまうことがある。武力行使という単純な方法でテロ撲滅に走るのではなく、弱者を守る対策を講じていく必要性があります」と訴える。

「昔は外交官か、国連職員になりたかった」という福田さんの今の夢は「弱者を追いつめ、結果として憎しみが生まれるような武力行使でテロを制圧しようとする限り、テロはなくならない。彼らの立場を守っていけるような安全保障の理論を自分なりに構築し提示していけるように、これからも研究を続けていきたいと思います」

1月30日のシンポジウムで発表する福田さん

アジアをはじめ、いろいろな国から来た学生が中部大学で熱心に勉強に励んでいます。

Welcome to Chubu University

A Friend from Abroad File.30

「バングラデシュのことを紹介できて良かったです」

建築学科4年 カジ ファイサル ザマン君

バングラデシュ国ビーバリア市出身のカジさんに話を伺いました。

―バングラデシュという国について教えてください。

「母国語はベンガル語で、世界で7番目に話す人が多いとされる言語です。詩人ラビンドラナート・タゴールがベンガル語で『ギーターンジャリ』という詩集を発表し、アジアでは初めてノーベル文学賞を受賞しました。また僕が育ったビーバリアは農業と天然ガスの産出で有名です。特に天然ガスは、ここから国土全体に供給されていて、バングラデシュ人のライフラインになっています。英語教育は、まだ自分の言葉も満足に読み書きできない小学校1年生から始まります。『英語を勉強しなければ、立派な社会人になれない』と考えているバングラデシュ人は多いのです」

―来日のきっかけは何ですか。

「足先に日本で勉強していた兄から、日本の文化や技術について話を聞いて興味を持ちました。日本語は来日してから勉強を始めました」

―どこで日本語を勉強しましたか。

「中部大学の留学生別科です。ビザの関係で他の留学生より少し遅れて日本語の勉強を始めたので、学部の入学試験までわずか6カ月しかありませんでした。兄から『1年で合格しなければ、国に帰れ』ときつく言われていたので、授業後、補習を受けるなどして猛勉強しました」

―来日してびっくりしたことは何ですか。

「留学生別科で旅行に行ったとき、みんなで裸になって一つのお風呂に入っていたことです。バングラデシュでは、そういう習慣がないので、ちょっと抵抗がありました。暴走族にもびっくりです。戦後、わずかな時間で経済的にも技術的にも飛躍的な成長を遂げて、こんなに恵まれた環境にいるのに、社会を乱す人がいる。僕が抱いていた日本人の冷静、丁寧、勤勉というイメージも変わりました」

―授業や学生生活で困ったことはありますか。

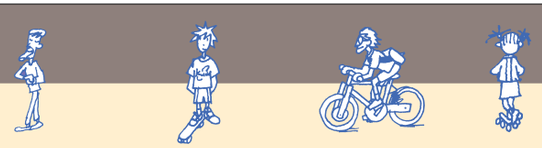
「教科書の漢字は読めるのですが、先生が黒板に書く字は癖があって理解するのが大変でした。わからない文字は、教科書から探して勉強しました。1年生の頃は友達になろうと思って、日本人学生の方に自分から声をかけてもほとんどの場合、返事は明るく返ってきませんでした。留学生は不安でいっぱいです。声をかけられたら、明るく返事をしてほしいですね」

―今どんな勉強をしていますか。

「山羽先生の研究室で、空調に使う熱潜熱材の開発と利用に関する研究をしています。先生に相談に行ったとき親切に『どうぞどうぞ』と、受け入れていただきました。とても嬉しかったです」

―卒業後の進路を教えてください。

「日本で就職後、アメリカかカナダへ留学して勉強を続けるつもりです。そのために、PASEOで英語を勉強しています。僕は思い切って日本に来たからこそ、路上生活を強いられている母国の恵まれない子どもたちのことや国の繁栄について考えられるようになりました。勉強で得た知識を、ボランティア活動などで国の発展に生かしていきたいと思います」



建築研究会

そのとき、そのときで興味のあることをやっていくこれって簡単なようだけど、かなり難しいことなんだよね

◀建築現場に訪れた研究会の面々

▼9号館東側棟の免震装置を見学

建築研究会、この名を聞いた人のほとんどは「何をやっているの?」と少し不審げに聞いてきます(笑)。活動は様々で主に現場見学、CAD講習や大学祭に参加したりしています。とは言っても、毎年同じことを行うというよりは、その年その年の部長がいろいろな企画を立て、みんなが興味を持ったことを行います。例えば、去年は3人1組の2チームで東海地区建築設計競技に参加して銅賞をダブル受賞いたしました。第3回春日井市都市景観アイデア賞では現4年生が優秀賞を受賞しました。他には、大学祭でろくろをひいたりもしました。建築研究会がナゼ陶芸?と思うでしょうが、気にしないでください(笑)。

そんな建築研究会はこの大学とあまり年齢が違わないほど歴史を積み重ねていて、部室には「いつの時代のもの?」というようなものがあったりします。大きくなったり、小さくなったり、かつては部そのものが無くなってしまうかもしれない危機に追いやられたこともあったようです。今は約40人の大所帯となり、まとまりにくかったりもしますが、それでも建築に興味をもっている人がこんなに集まったのはすごいな、と思うと同時に嬉しかったりします。

建築を学ぶことで大切なのは何にでも興味を持つことだと思います。建築研究会はその興味をみんなに提供できる場であればいいと思っています。今年はどんな活動を行っていこうかと言いますと、大学内外の現場見学、建築学科の先生との座談会、その他講演会、CAD講習、コンペの参加を予定しております。でも思いついたら即決が多いのでこれ以外に急に何かを始めるかもしれません(笑)。みんなの心に何か残せる活動ができればいいなと思っています。

建築学科3年
谷尻　かおり

イギリス／リーズ通信

Diary in Leeds

Leeds大学滞在日記①

英国での学び方事情

今号より小林孝一先生の留学日記を3回シリーズで紹介していきます。先生は、建設材料学、コンクリート工学を専門分野に鉄筋コンクリート構造物の耐久性、コンクリートの細孔構造と物性などについて研究しています。

Leeds大学のキャンパス

2001年 10月15日

英国Yorkshireの中心都市、Leedsにやって来てから早や1カ月弱、待ちに待った引越荷物の別送便が到着するとの連絡。New Yorkでのテロの影響か予定より大幅に遅れているが、既に冷え込みが厳しいため冬物の到着が嬉しい。この日の午後に配達とのこと。喜び勇んで正午頃に帰宅すれば、ポストには既に不在時配達通知が。慌てて通知に記載された配送業者に電話しても、「運転手はもう帰った、明日同じ時間頃にまた配達する」とのこと。しかもよく考えたら、なんで現地の配送業者が持ってくることになってるんだ？　下請けに出すなんていう話は聞いてないぞ、ク○○コヤ○ト。帰国時にはペ○カ○便を使うことにする。まあ、それはさておき、この国では公共交通機関も含めて時間は守られないこと、約束もしばしば無断ですっぽかされることがあるということを、この後もイヤというほど思い知らされる。

Leedsは商業都市で、このようなアーケードが多い

2001年 10月29日

本年度から新規に開講された修士課程のInfrastructure Asset Maintenance and Management Courseの講義を学生に交じって聴講する。

講義を聞いていて思ったのは、「板書をしないなあ」ということ。ほとんどの内容をOHP、パワーポイントで説明する。また学生には講義開始時に大量のプリントを配付し、「説明する内容は全てプリントにあるから、ノートは取らずに聞きなさい」とのこと。学生も簡単なメモを取るだけで、時おり質問をする他はずっと聞いている。またこのコースに限っては月曜の9時から木曜の6時まで同じ科目を集中して開講し、計16週間で16科目開講しているのも特徴だろう。レポート課題も毎日出ていたが、それをやるためには先程のプリント（1週間で厚さ3センチ程度になった）に目を通さなければいけないので、日本の学生よりもずっと忙しそうだ。それもそのはず、英国では修士が1年で取得できるので、その分、ほとんど休みなしで一生懸命勉強しなければならないのだ。

2002年 3月20日

本日、ついに最後の実験用供試体が完成し、ようやく実験を開始できることになる。まことにめでたい。

いや、ちょっとまて、ここには1年しかいないのに、実験開始するまでに半分終わっちゃったじゃないか。思えば苦闘の半年間であった。なぜ彼らはこういうペースで仕事をしていて先進国の一員でいられるのか、非常に不思議だ。日本人はなんのかんの言って、今でも十分勤勉であることを痛感する。技官いわく「我々英国紳士にはTea Timeが必要なのだ」。

午前と午後に30分ずつお茶休憩を取って、昼にはもちろん1時間休憩、4時45分には帰宅準備開始。つっかさあ、ひとこと言っていいか？

「君は別に紳士とちゃうやん」

土木工学科 講師
小林 孝一

＊本文章は、「Leeds大学滞在日記（コンクリート工学Vol.40, No.10, pp.29-30に掲載）」を（社）日本コンクリート工学協会の許可を得て、一部加筆、修正した上で転載しているものです。

私のいちおし

国際関係学科 教授 峯 陽一

MY FAVORITE Book

たくましく生きる12人の若者たち

インタビュー・文:ティム・マッキー
写真:アン・ブラックショー
訳:千葉茂樹
小峰書店　定価:1500円(税別)

「南アフリカについて書かれた、おもしろい本があります。日本語版を出版したいのですが、解説を書いてもらえませんか」

小峰書店という出版社から、そんな電話があった。南アフリカのことに詳しい人は、日本にはそう多くない。僕がやらなかったら、誰か他の解説者を紹介しないとなぁ。そう思いながら、編集者の人に「とりあえず現物を見せてください」と答えておいた。

それにしても、小峰書店という名前には覚えがある。そうそう。子どもの本の出版社だ。『しんかんせん・のぞみ』だとか、『さんすうドリル』などを出しているところで、自宅の子どもの本棚にもいくつか小峰書店の本が並んでいる。

やがて、英語の原書と、本文の日本語訳の原稿が送られてきた。こんな本が出ていたなんて、知らなかった。ものすごくいい。

南アフリカの若者たちの証言集である。世代としては、大学生の皆さんとほとんど変わらない。それにしても、登場する12人の若者たちの人生が、ほんとにすごい。

父親がマフィアの抗争で死刑になったという女の子。白人女性をナイフで刺しては金を奪っていた家なき子。黒人を差別して何が悪いと思っていた白人の娘。10歳でようやく小学校に通えるようになった農場労働者の娘。親兄弟を殺された青年活動家。農民の子。パソコンに囲まれた都会っ子。

ひとつだけ共通点がある。みんな若いということ。過去の自分を冷静に振り返っていること。肌の色をこえて、友達をつくろうとしていること。自分に自信を持とうとしていること。

日本語版は、中高生でも読めるように平易な訳文になっている。でも、これは大学生や大人にも、ぜひ手に取ってみてほしい本だ。写真がたっぷり使われていて、その一人ひとりの表情に、味がある。

そこには、過酷な人種差別をくぐり抜けながら、友人や家族を大切にして、自分を信頼して、そして「未来を信じて」、たくましく生きるティーンの若者たちがいる。地球の裏側の彼ら・彼女たちから、読者はきっと、生きる力を分けてもらえることだろう。ぜひ読んでみてください。

シリーズ77

「周囲に流されず自分で判断、行動する」学生への言葉は、自分への教訓でもある

なぜかいつも新しい部署に

今から7年前、万博推進室開設と同時に配属が決まった中嶋さん。当時は、新規開発サービス課でマスコーリング・システム(テレゴング、テレドーム)の開発を終えた時期だったといいます。

「幹部候補生じゃないから、出世を気にせず好きなコトをしてきた。異端児ですよ」と謙遜する中嶋さんですが、入社時から熱意の人だったことを物語るエピソードがあります。

卒業の昭和49年はオイルショック後の就職難の時代。すでに内定していた会社が2月に倒産、あわてて決めた次の会社も3月に倒産という非常事態。就職浪人だけは避けたい心で臨時採用の電電公社(現NTT)に願書提出。ところが、学部指定外という理由で門前払いをされそうになり奮起、直談判でなんとか試験にこぎつけたのこと。「あとはひたすら熱意でしたよ」そして無事4月入社を確保したのです。

目標を定めたら、一気に突っ走る。そんな情熱は、30年余りたった今でも変わることなく脈打っているようでした。

一人ひとりが主張する万博に

これまで報道されてきた万博の動きを現場で目の当たりにしてきた7年間。その間ずっと戦いの日々だったといいます。「企画しては壊しの連続でした。はっきり言って、まだまだ見えてないんですよ。とはいえ、期限がある以上、やらなきゃ。それにインフラ整備は、番先でないと困りますからね」

21世紀初の万博は情報通信万博になると予想されています。NTTはパビリオンを作らないことで当初の理念を貫く方針。中嶋さんの仕事は現在、国内の各企業や海外との交渉役。ほぼ毎日、他業種の人と会って話をしているとか。「僕としては、地球そのものが万博会場という意識。どこにいても、参加できるんだけど、会場に来た人にだけ特典が得られる何かが必要。一人ひとりが主張する万博にしたいんです」

山育てをライフワークに

万博を熱く語る中嶋さんには、さらに叶えたい夢があるそうです。

「万博が終わったら退職。その後は故郷の新城市の山を育てたい。落葉樹林にして川をキレイにする。昔の自然を取り戻したい。ライフワークになると思う。NPOを立ち上げようかな」

最後に中部大生へのメッセージを伺いました。「一人称で考える人になってほしい。つまり自分自身の基準をしっかりと持ち、その上で常に相手の目線に立って、話したり考えたりできる人に。対等になったところから人と人の関係は始まるから」

中嶋　和雅さん

NTT西日本
(西日本電信電話株式会社　名古屋支店)
2005年国際博覧会推進室　次長
昭和48年度　工業物理学科卒業

2331人の新入生を迎えて 晴れやかに平成15年度入学式を挙行

平成15年度の入学式が穏やかな春の陽に包まれた4月3日午前、体育館・講堂で行われた。飯吉厚夫学長が新入生2241人、編入生54人、留学別科生36人の総計2331人に入学許可宣言を行った後、告辞で「大学は、これまでの学校生活と違って、自分で学び、自分で問題にぶつかり、自分で解決する努力をし、その過程で自分の才能を見つけて磨きをかけるところです。自分から目標を持って、勉学に励んでください」と訴えた。そして、創立者が建学の精神とした「不言実行―あてになる人間の育成」を紹介した後に「21世紀は光の部分だけでなく、陰の部分にも光を与える時代です。9・11テロ事件、イラク戦争など前途多難を予感させる出来事によって、地球平和の構築という困難な課題にも取り組んでいかなくてはいけません。自然、社会、人間を視野に入れた総合的なものの見方を身につけることが大切」と激励した。

入学生代表宣誓は工学部応用化学科の水谷繁君が行い、各学部、留学生別科の代表者による入学生代表者宣誓簿署名が行われた。校歌斉唱の後、山下副学長の閉式の辞で入学式を終了した。

大学院入学式 三浦幸平メモリアルホールで

学部の入学式が行われた4月3日午後、大学院の入学式が三浦幸平メモリアルホールで行われた。

山下興亜副学長の開式の辞に続いて君が代斉唱の後、飯吉厚夫学長が入学生110人に入学許可宣言を行った。続いて飯吉学長が告辞を行い、「研究を通してそれぞれの専門分野に何か新しいものを与えることが皆さんの使命です。イマジネーションを膨らませて未知の課題に挑戦し、オリジナルな成果を出してください」と激励した。そして恩師の言葉を引用し「創造的な研究には3つのH―Head・Hand・Heartが大切です。頭を使って行動し情熱をもって研究する。皆さん大いに研究に励んでください」と話を締めくくった。

入学生代表宣誓は大学院工学研究科博士後期課程応用化学専攻の伊藤宏徳君が行い、各研究科の代表者による入学生代表者宣誓簿署名が行われた。校歌斉唱の後、山下副学長の閉式の辞で入学式を終了した。

1673人が巣立つ 平成14年度卒業式

平成14年度卒業式が、留学別科生も参加して3月22日午前10時より体育館・講堂で行われた。

飯吉厚夫学長が、4学部代表者に学士の学位記を、留学生別科修了者の代表に修了証書をそれぞれ手渡した。学長は告辞で「世界は、新しい秩序を求めて混迷と模索の時代が続き、過去の経験だけでは解決できない困難が起こるでしょう。しかし人間は逆境の中で自分の能力を高めることができるのです。自分の頭で考え行動に移す。答えの見えない問題に強い精神力と気力でぶつかって、社会を生き抜いてほしい」と卒業生にエールを送った。続いて卒業生を代表し、岡部直樹さん（英語英米文化学科）が「大学4年間の間には、アメリカ同時多発テロ事件など暗い出来事もありましたが、FIFAワールドカップのように明るい話題もありました。一つのサッカーボールめぐってみんなが切磋琢磨し、つよくなろうとする姿は、私たちに平和の重要性を印象づけました。文化交流を通して平和な世界に向かっていけるように努力していきたい」と謝辞を述べた。最後に全員で校歌を斉唱し式を終えた。その後、学部・学科ごとに分かれて学位授与式が行われ、学部長、学科主任から、学生一人ひとりに学位記が授与された。国際関係学部では、優れた卒業論文に対して贈られる優秀論文賞授賞式もあわせて行われ、国際文化学科の平井芽阿里さんが最優秀論文賞に輝き、飯吉学長から賞状と記念品を受け取った。

大学院学位記授与式 初めてメモリアルホールで

大学院の学位記授与式が3月22日、三浦幸平メモリアルホールで行われた。午後2時、山下興亜副学長により開式が宣言され、君が代斉唱に続いて河合茂博さん（機械工学専攻）はじめ4人が博士の学位記を、飯吉学長から授与された。続いて山内けい子さん（工業化学専攻）はじめ3研究科73人の代表3人にそれぞれ修士の学位記が授与された。

学長告辞で飯吉学長は「これからは未知の問題が対象、中部大学で学んだ学識と実行・実践のチャレンジ精神で解決に当たってください」「コミュニケーション能力の更なる向上」「幅広い視点で物事を考える」ことの大切さなどを訴えた。これに対し安藤伸也さん（機械工学専攻）が「自分の学力の向上を図り、能力、経験、肉体的にも逞しくなった人間として日本と世界を活性化させる起爆剤になりたい」と謝辞を述べた。

最後に混声合唱団も交え、全員で校歌を合唱して式を終えた。

緑に被われた全天候型グラウンドが完成

昨年11月25日に起工式を行った旧第1、第2、第3グラウンドが4カ月半に及ぶ工事を経て、最新型の人工芝に被われた全天候型メイングラウンドとサブグラウンドに生まれ変わった。今回採用された人工芝は毛足の長さが6㎝で、細かいゴムチップと砂が5㎝の厚さに敷き詰められており、足への衝撃も少なく、限りなく天然芝に近いものである。完成したメイングラウンドは6コース400mのタータントラックのフィールド部分がこの最新の人工芝で被われている。90m×64mのサブグラウンドにもこの人工芝が採用されている。これによって二つのグラウンドの総面積はこれまでより30%増え、23500平方メートルとなった。このグラウンドのこけら落としをかねて5月25日に「中部大学杯少年サッカー大会」を開催した。また、6月18日には「学長杯争奪学科対抗スポーツ大会」の開催を予定している。

硬式野球部・鈴木義広君が大学野球選手名鑑に登場

右投右打、昨秋リーグ戦でイーヒットノーランを記録した硬式野球部・投手の鈴木義広君（機械工学科3年）が、白夜書房から発行された『野球小僧 No.15の「大学野球選手名鑑」』で紹介された。

愛・地球博を前に瀬戸市を中核として 大学コンソーシアムせとが発足

瀬戸市近隣の6大学が参加して「大学コンソーシアムせと」が結成され、活動を開始することになった。6大学の学長と瀬戸市長が出席して「大学コンソーシアムせとに関する包括協定書」の調印式が6月3日午前、瀬戸市役所で行われた。

このコンソーシアムはこれまでの単位互換などの大学連携の枠組みを超えて、尾張瀬戸駅前ビル（仮称）を拠点に「大学と地域」が連携することで、学生はもとより、市民もまちづくりや生涯学習などへ参加することによって、地域文化の創設や交流活動を促進することを目的としている。

参加大学は中部大学、愛知工業大学、金城大学、名古屋学院大学、名古屋産業大学、南山大学の6校。コンソーシアムの発足によって、次のような事業が可能になってくる。**①共同イベントの実施、②生涯学習プログラム、③図書館連携、④インターンシップ事業支援、⑤大学に対する社会的要請窓口の設置、⑥商店街などとのまちづくり連携、⑦NPO・ボランティア活動との連携、⑧単位互換、⑨共同講座、⑩サテライト教室など。**

今後の展開として今年度は、協定書に基づき「協議会」を設置し事業運営内容について協議決定し、コンソーシアムを広くPRするためにフォーラムなどを開催する。来年度は愛・地球博関連イベントにコンソーシアムとして参加する。2005年度には尾張瀬戸駅前ビルでの本格的活動をスタートさせる。

コンソーシアムの拠点となるビルのネーミング募集に応募しよう

2005年3月にオープンする尾張瀬戸駅前ビル（仮称）は瀬戸市の中心市街地にあって大学コンソーシアムの拠点、市民交流の拠点などとして機能させるために、瀬戸市が建設を進めている地上6階建ての多目的ビルです。いまこのビルのネーミングを募集しています。

賞品は愛・地球博の入場券など。締め切りは6月30日。詳しくはキャンパスプラザ郵便局横の「学生部掲示板」のチラシをご参照ください。

CAMPUS NEWS

スクールバスがＪＲ神領駅からの発着に

ＪＲ春日井駅～大学間のスクールバス運行は、朝夕を中心とした道路渋滞などによる支障が見受けられ、その改善は長年の懸案となっていた。このたび、大学の最寄り駅である「ＪＲ神領駅」南地区の土地区画整備事業により神領駅前の再開発が行われ、大学方面への道路が新たに整備され、乗り場用地が確保されたことに伴い、平成15年4月1日より「スクールバスのりば」が神領へ移転した。バスのりばの工事は3月末に完成、総面積は1000平方メートル、建物部分は218平方メートル。所要時間も7～10分程度へと短縮した。

五十嵐ゼミ生が名古屋ビデオコンテストで名古屋テレビ賞

アマチュア映像文化の発展と振興、次世代の育成を目的とする第5回名古屋ビデオコンテストに、五十嵐滋講師ゼミの大藏千穂さん（コミュニケーション学科4年）、加藤隆行君（同）、藤野玲子さん（同）、山下大輔君（同）のチームが、自主制作ビデオ「陶芸～ろくろをひく若者たち」を出展、その授賞式が去る3月30日、東別院ホールで行われ、応募作品111点の中から見事名古屋テレビ賞に輝いた。

この中で大藏さんらは常滑・陶芸研究所で1年間、無償で陶芸を学ぶ若者6人の1日を取材、真摯に作品に取り組む彼らの姿とメッセージを10分の作品にまとめた。作品が受賞したことについて「びっくりしました。こういうところで、自分たちの作品が評価されるのはとても嬉しいです」と語っていた。

トライアスロン部がアイアンマンレースに出場し226・195キロ走破

水泳3・8キロ、自転車180・2キロ、マラソン42・195キロ、総距離226・195キロに及ぶアイアンマンレース。世界各国から1100人余りが参加して、去る3月1日、ニュージーランド・タウポ市で開かれたこの大会にトライアスロン部の近藤雅哉君（平成14年度機械工学科卒）と松本浩治君（平成14年度建築学科卒）が出場し、14時間というタイムで走破した。2人からは「感動しました。この距離は初めてで不安があったが完走できて良かったです」「トライアスロン部でやってきた4年間の集大成として満足です」とレースの感想を語ってくれた。

宮脇澤美前教授（工学基礎教室）が名誉教授に

今年3月、本学を退職された宮脇澤美前教授（工学基礎教室）に4月1日付けで名誉教授の称号（第30号）が授与された。授与式は同日、学長室で行われ「教育上学術上特に功績があった」として飯吉学長から辞令書が手渡された。

長谷川勝講師（電気工学科）がファナックＦＡロボット財団第1回論文賞を受賞

長谷川勝講師（電気工学科）がファナックＦＡロボット財団第1回論文賞を受賞した。受賞論文は「γ－正実化問題とゲインスケジュールドH_∞制御を用いた軸ずれを抑圧する同一次元オブザーバのロバスト設計法」（電気学会論文誌D）。（社）電気学会の推薦を受けた長谷川講師らの学術論文が同財団の審査委員会で審査されて受賞が決定した。論文の内容が独創性に優れ、かつ工業的価値が高いと認められたことが主な受賞理由である。

去る3月7日、ホテルオークラ（東京・虎ノ門）で表彰式が行われ、電気学会会長、日本ロボット学会会長などが参列される中、長谷川講師に表彰状と記念メダル、副賞賞金が贈られた。なお、長谷川講師は関連の研究で電気学会優秀論文発表賞（産業応用部門研究会）、計測自動制御学会中部支部第32期支部賞奨励賞をあわせて受賞している。

オハイオ大学ホームページで同大学で学ぶ58人の近況を公開中

アメリカ・オハイオ大学長期研修に参加する学生58人が去る3月29日、名古屋空港を出発し、同日、無事にオハイオ大学に到着した。

現在の社会的状況、日本の家族や友人・関係者に対する配慮から、オハイオ大学OPIE（Ohio Program of Intensive English：オハイオ集中英語プログラム）の担当者ジェラルド・カージック教授がOPIEホームページ内に「CHUBU2003」を開設、オハイオ大学で学ぶ本学長期研修参加学生たちの様子がＷｅｂに公開されている。この内容は随時更新され、研修団が帰国する7月26日まで続けられる予定だ。現地の様子を知りたい人は中部大学ホームページの「国際交流」からアクセスできる。（http://www.ohio.edu/opie/）

オハイオ大学大学院へ奨学金留学生3人が出発

平成15年度のオハイオ大学大学院奨学金留学制度による奨学金留学生3人が決定、同大へ出発した。

今年度チャールズ・J・ピン奨学金留学生には、英語英米文化学科中野由香里さん、国際文化学科筒井博司君、山田和夫奨学金留学生には英語英米文化学科豊田菜穂さんが選ばれた。

山下副学長が「2年という限られた時間だが、精一杯学び、経験を重ね、将来に役立ててください」と激励。立本学部長が「死にものぐるいでがんばってきてほしい」とエールを送ると、「日本より進んでいるアメリカで幼児教育を学び、将来に生かしたい」「他の留学生などとも交流を持ち、コミュニケーション力・ディスカッション力を高め、ビジネスに役立つ力をつけたい」「外国人に対する言語教育を学び、将来は日本にいる外国人の教育をめざしたい」などと学生らは英語で決意を述べた。

Campus Information 情報ひろば

学術情報センター

新入生のみなさんへ

学術情報センターは学生全員が利用できるコンピュータ施設です。大学のコンピュータを有効にご利用ください。

オープン時間

◎実習室（223A・223B・242A）
月曜日～金曜日 9時～19時
土曜日 9時～15時30分

◎自習室（22号館2階）
月曜日～土曜日 8時～20時45分

実習室はオープン時間のうち、授業が行われていない時間帯は学生に開放しています。自習室はオープン時間中いつでも利用できます。入室には学生証が必要です。学生証を忘れずに持参してください。

Random Shot ランダムショット

［第113回］

中部大学非常勤講師
名鶴ひとみさん
（名鶴ひとみステージングダンス代表）

Ms.Hitomi Nazuru
8歳の頃から現代舞踊、13歳からクラシックバレエと声楽を学ぶ。宝塚では唄って踊れる娘役として、月組公演「ドン・ホセの一生」でミカエラ役を好演し新人賞を受賞した。

宝塚への切符

「踊ることしか私にできることはなかったの」と語る名鶴ひとみさんは、名古屋と岐阜でダンススクールを経営、カルチャーセンターなどで開かれるダンス講座への講師派遣ほか、本学では講師として週1回、体育の授業を担当している。スタジオでは、元タカラジェンヌから直々にダンスのノウハウを勉強したいと希望する生徒が多く、名鶴さんの授業を受けられる中部大生を羨む声もあるらしい。

初めて宝塚の舞台を観劇したのは小学校5年生の時。タカラジェンヌが繰り広げる華やかで迫力あるステージに心が躍ったという。「舞台に立ちたい」一心で芸能界入りに反対する両親を説得、「一度だけ」という約束で宝塚音楽学校の受験を認めてもらった。当時、宝塚を志す者にとって、身長が低いことはかなりのハンデだったらしく、課題のクラシックバレエや声楽に力を入れ、その努力が実を結び、宝塚への切符を手に入れた。

33歳の転機

23歳で宝塚を退団、10年間「踊ること」から遠ざかっていた名鶴さんに転機が訪れた。1980年代、若者の間でジャズダンスが流行し、名鶴さんは「私でも教えられるのでは」と一念発起。ボーリング場の一室にダンススタジオを借りた。ポスターを貼っただけの簡単な広報活動だったが、100人の生徒が集まった。

週12レッスン、経営、広報活動と一人三役をこなす毎日は「精神的にも肉体的にも休まることはなかった」と言う。ダンスブームの波に乗り、3年で400人、多いときには750人の生徒を抱え、一大スクールへと成長を遂げた。

「怪我をすると周囲から引退を勧められることがありますが、踊りたいという気持ちは若い頃より強いですね」名鶴さんは毎日の体の管理を怠らない。年齢とともに筋力が付きにくく、疲労が重なると古傷に悩まされることがあるからだという。「自分の体と上手につきあって、これからもできる限り踊りたいと思います」

最後にいただいた学生へのメッセージは「何をするにしても体が資本です。自分の体にもっと関心を持ってほしいですね」とのこと。そして「いつまでもチャレンジ精神を忘れないで」とエールを送ってくれた。

キャンパス再発見

4度の中部建築賞受賞歴をもつ大学キャンパス（前編）

中部地方の発展に貢献した作品に贈られる中部建築賞（中部建築賞協議会主催）。本学では4度の受賞に輝きました。

初の受賞は1969年度（昭和44年度）第1回大会。緑のキャンパスに校舎や施設を機能的に配置した中部工業大学（現・中部大学）キャンパス計画で、基本設計は、昭和41年に発足した建築委員会によって考案されました。

まず正門からメインプロムナードをまっすぐに設け、これに直行してキャンパスの中心に緑の広場を配置しました。講義室、研究室、実験室はデザインを統一し、学生ホール、附属三浦記念図書館、体育館・講堂は、建物の架構（骨組みとなる部材を結合して組み立てた建造物）を生かして空間性を表現、このスケール感と完成度の高さが評価に結びつきました。

2回目の受賞は1976年度（昭和51年度）第8回、丘陵の傾斜地に建てられた恵那研修センターで、スペイン風の建物が評価されました。

大学が春日井の桃園の地に誕生して以来、授業や研究の場として建設が続けられてきたキャンパス。総合大学へと着実な転換を遂げられたのも、キャンパスそのものが時代の変化に対応できる弾力性を身につけているからかもしれません。